

# 成果報告書

横須賀市立教野小学校 藤田昭雄

## 1 活動の趣旨

本校では、研究テーマとして『一人一人の思いを大切に生き生きと活動する生活科・理科』を設定している。今年は研究の3年目にあたり、過去2年間の研究を通して、子どもの思いを大切に授業展開や教材の価値を見抜く目など、少なからず教師自身が変わったことを実感できている。

＜昨年度の教師の感想から＞

- ・今まで以上に、子どもの思いを大切に授業の組み立てをするようになった。
- ・研究を通して教師間の結束が高まったと思う。理科教育の大切さを確認できた。
- ・教材を見たとき、多角的な視点でとらえられるようになった。
- ・教師の意識の中にテーマがあり、姿勢が変わってきたと思う。

等が挙げられた。

教師の変容は理科の授業だけではなく、他教科の授業や日常子どもたちと接する姿勢にも影響し、それは必ず子どもの変容をうながすものだと考える。

また、今年度、サブテーマとして設定した「子どもの内面・変容を探る」は、2年間の研究のまとめとして、教師の変容が子どもたちにどのような変化をもたらしているのかを検証していくことを目的として設定している。サブテーマを設定したが、研究の基本路線に変わりはなく、研究テーマの『一人一人の思いを大切に』の部分や、視点Ⅲ「子どもの思いを見通す」に重点をおいてとらえたものである。子どもの実態を丁寧にとらえ、それをもとに子どもの思いを見通していく。教師が子どもの思いを見とり、その思いを引き出し、価値付けたりすることなどを通して、子どもたちが『生き生きと活動』できたのか、また、教師や子どもどうしの関わりを通して子どもたちがどのような姿を見せてくれたのかを見とっていく。

## 2 活動状況

1, 2年については生活科、3年から6年までは理科の研究を行った。学年ごとに研究単元を設定し、指導案検討を低・中・高学年ブロックごとに指導主事に指導を仰ぎながら行った。その成果を研究授業として公開し、授業後には研究全体会を行った。

本校では、研究テーマを実現するために、4つの視点が設定されている。

視点Ⅰ 揺さぶられる子どもの心と論理

視点Ⅱ 「見えてくる」になるまで注意深く見る

視点Ⅲ 子どもの思いを見通す

視点Ⅳ 表現と学び合い

研究単元が決定した後、学習のねらいに沿った指導計画を立案するが、その計画の中に、上記の4つの視点を、子どもの具体的な姿を想像しながら散りばめていく。子どもの思い、子どもの姿を出来る限り考えることが大切だと考える。

### ＜校内研究授業・指導案検討の日程計画＞

日にち	内容
6月 7日(火)	高学年ブロック研究
6月21日(火)	高学年ブロック指導案検討②(佐藤指導主事来校)
6月29日(水)	研究授業「ものの燃え方と空気」 研究全体会(佐藤指導主事来校)
9月 1日(木)	中学年ブロック指導案検討
9月 5日(月)	中学年ブロック指導案検討①(佐藤指導主事来校)
9月13日(火)	中学年ブロック指導案検討②(佐藤指導主事来校)
9月26日(月)	研究授業「光をあてよう」 研究全体会(佐藤指導主事来校)
9月 1日(木)	低学年ブロック指導案検討
9月 5日(月)	低学年ブロック指導案検討①(康乗指導主事来校)

9月13日(火)	低学年ブロック指導案検討②(康乗指導主事来校)
9月26日(月)	研究授業「こどもまつり」 研究全体会(康乗指導主事来校)
10月24日(月)	中学年ブロック指導案検討
11月10日(木)	中学年ブロック指導案検討
11月14日(月)	中学年ブロック指導案検討①(佐藤指導主事来校)
11月21日(月)	中学年ブロック指導案検討②(佐藤指導主事来校)
12月 2日(金)	研究授業「水のすがたのふしぎ」 研究全体会(佐藤指導主事来校)
12月15日(木)	高学年ブロック指導案検討
1月11日(水)	高学年ブロック指導案検討①(佐藤指導主事来校)
1月20日(金)	高学年ブロック指導案検討②(佐藤指導主事来校)
1月30日(月)	研究授業「もののとけ方」 研究全体会(佐藤指導主事来校)

### 3 結果

#### <子どもの変容>

- ・事実を注意深く見させることを繰り返してきたことで、現象を注意深く見るようになってきている。
- ・見通しや予想については、経験を元にした考えなのか、根拠の乏しい想像なのかを注意しながら考えられるようになってきた。また、仲間の予想をこの観点で聞けるようになってきた。
- ・(高学年では)実験を計画する際に実験図のポスターを作る活動を行い、それを発表する活動を続けてきた。自分が何のために実験をし、どういう結果が得られると自分の見通しを確かめられるかを考えられるようになってきた。また、実験については、条件を整える事、比較することに敏感になった。
- ・自分が予想したり、考えていたことを確かめることで、自分の手で実験をする楽しさを感じていた。
- ・次の時間に自分達が何を学ぶのかが分かっている授業に臨む事ができた。

#### <教師の変容>

- ・理科における、学年の発達段階の特性を考えるようになった。
- ・子ども達が自分で問題を見つけ、解決方法を考え、結果を出し、さらにその結果から新しい問題を見つけていくという学習の方法が子ども達の思いを大切に、学習を深めていくのだと思えた。
- ・子どもの思考の流れを大切に授業展開を考えられるようになった。
- ・子ども自身が気づけるように、その切り口をどこに設定するかの大切さを感じられるようになった。

### 4 今後の課題と発展

3年間の研究で得られた成果をもとに、今、荻野小学校の子ども達に何が必要なのか、子ども達が生き生きと学習を進めるために教師がすべき事は何なのかを追究していく。

### 5 財団への意見

特になし。